

# 切除不能膵癌に対する温熱化学放射線療法 —その1：病期別の治療成績—

社会医療法人財団白十字会佐世保中央病院  
放射線科 平尾幸一、堀上謙作、末吉 真  
臨床工学部 中島喜代子、上原かをる、中山絵美、  
関谷光彬、高取広太郎、森田晃平  
長崎大学医学部放射線医学教室 山崎拓也

## 【はじめに】

切除不能膵ガンに対して、温熱化学放射線療法（以下、HCR療法）の効果について、病期別に検討したので報告する。

## 【症例】

2001年4月～2014年3月までに、PSが0または1の17例切除不能膵癌に対して、HCR療法を行った。内訳は、男性11例、女性6例で、stage IVa：4例、stage IVb (M0)：5例、stage IVb (M1)：8例である。なお、膵癌術前照射、膵癌術後再発および粘液産生腫瘍、悪性リンパ腫は除外した。

ハイパーサーミアは、山本ビニター社製 Thermotron RF-8 を用いて、毎週～2週に1回、50分の加温を、5～80回行った。放射線治療については、外照射はすべて10MV X線を用いて、1例で術中照射30Gyと外照射40Gy2門20fr、1例で外照射44Gy4門22fr、残りの15例では外照射50.4Gy4門28frで照射した。化学療法は全例でGEM 600～1600mg（標準投与量の47～100%、中間値82%）を3投1休～隔週で投与し、10例でTS-1を80～120mg投与した。

## 【結果】

Grade3以上の有害事象は、12例で生じた。

stage IVa 4例の生存期間は19～45ヶ月（中間生存期間33ヶ月、2年/3年生存率50%/50%）、stage IVb (M0) 5例の生存期間は11～41ヶ月（中間生存期間27ヶ月、2年/3年生存率50%/17%）、stage IVb (M1) 8例の生存期間は5～19ヶ月（中間生存期間11ヶ月、2年生存率0%）であった。

生存率については、stage IVa、stage IVb (M0) と、stage IVb (M1) との間には有意差があったが、stage IVa と stage IVb (M0) との間には有意差はなかった。

## 【考察】

化学放射線療法に adjuvant chemotherapy を行った報告よりも、中間生存期間、2年生存率、3年生存率は、我々の報告の方が上回っており、その報告では38ヶ月以上の生存は得られていないが、当院では9例中3例が38ヶ月以上生存していた。

## 【結語】

stage IVa、遠隔転移を伴わない stage IVb に対しては、HCR療法を積極的に行うべきであり、化学放射線療法に adjuvant chemotherapy を追加する方法を上回る治療効果を期待できる。